“チョウと植物の関係”から地球環境を考える里山楽校

宮前和夫（群馬ナチュラリスト自然保護協議会）

キーワード：アサギマダラ、草原性の蝶（アカセセリ、ホシチャバネセセリ）、地球温暖化、里山と高原、自然保護・保全

１　はじめに

平成２８年４月２５日、間もなく北上を開始する海を渡る神秘な蝶(アサギマダラ)のマーキング調査をするため、沖縄県北部の八重岳に行ってきました。沖縄昆虫同好会によると、今年の沖縄は、なぜかアサギマダラの発生数が極めて少ないとのこと。そして、この異変は、その後全国各地から届いた北上個体数の情報からも知ることとなりました。尚、今回のアサギマダラが見つからなかった中での八重岳の調査は、林道で吸水中のイシガケチョウを撮影しての帰宅でしたが、この熱帯系の珍種も、また、気候変動の影響を受け、今や、九州ではいずこも普通種となり、中国地方から近畿地方まで分布を拡大していることはだれもが知っていることだと思います。地球環境の異変は、こうした小さな昆虫の生息状況に間違いなく表れています。今、日本全国の里山や高原・山岳で、チョウをシンボルとして、自然を守る活動を進めている人達が大勢いますが、私たち、群馬ナチュラリスト自然保護協議会もその団体の一つです。

私たちは、この海を渡る神秘の蝶“アサギマダラ”を環境の指標生物として、継続的に調査をしています。その中で、昨年度は、２頭の再捕獲情報を確認しました。１頭は群馬県嬬恋村の桟敷林道から三重県御浜町横垣峠で再捕獲。もう１頭は、石川県で再捕獲の後、鹿児島県喜界島で再々捕獲という情報が届き、新しい南下ルートが確認されました。さらに、本年度は、５月から８月までの４ヵ月間、県立榛名公園沼ノ原に生息する草原性のチョウを調査して来ました。今、日本全国の調査によると、草原性のチョウの生息状況がますます悪化しています。身近な里山、草原、そして高原に生息する小さな生き物は、その環境を選んで生き続けてきましたが、減少や絶滅など心配される状況が起きています。今こそ、小さな生き物の棲む環境や実態をじっくり観察・分析し、その変化を伝えて行く活動が、自然保護・保全の観点から、とても重要なことと考えています。まさに、かけがえのない地球環境を守る大切な第一歩であると確信しています。

２　活動内容と結果・考察

海を渡る蝶“アサギマダラ”のマーキング調査と自然観察　（一部を紹介）

◆４年間のマーク数　　場所：群馬県嬬恋村の小桟敷山登山口（桟敷林道）

雌雄計：９６頭（Ｈ２５）　３１頭(Ｈ２６)　６５頭(Ｈ２７)　５７頭(Ｈ２８)

〈考察〉 再捕獲率が、３％と言われている中、平成２７年度に以下の２個体で再捕獲及び再々捕獲を確認。①三重県御浜町横垣峠へ１０／７に再捕獲。【飛翔距離３６７．９㎞、飛翔日数６６日】② 石川県へ９／２６。さらに、鹿児島県喜界島へ１１／２に再々捕獲。【飛翔距離１２８９．５㎞、飛翔日数１０３日】。これまで、群馬県以北からの南下個体は、東海三県(静岡県・愛知県・三重県)での再捕獲率が高く、①のルートが、まさにそれである。また、②の石川県に向かうルートは、Ｈ２７に、長野県南佐久郡や伊那郡からも８頭見られたが、これまで群馬県の桟敷林道からはなかったことであり、新ルートと言えそうだ。ただ、①②ともに言えることは、このルート途中に、３０００m級の山が

連なる三つのアルプス山脈（飛騨山脈、木曽山脈、赤石山脈）があり、南下時期の気温によっては、越えられない環境下にあると考えられる。今後は、南下時期の気温と移動開始の時期についての情報を蓄積し分析する必要がある。

草原性の蝶“アカセセリ”　“ホシチャバネセセリ”　（一部を紹介）

◆草原性の蝶の生息調査(一年次目)　　場所：県立榛名公園沼ノ原

○(ホシチャバネセセリ、アカセセリ)の生息状況

ホシチャバネセセリは、８／９に１個体を。アカセセリは、７／２０に１個体を目視で確認。ただし、個体が小さく捕獲による採集や写真撮影が出来なかったため、正確な確認とは言えない。今回、沼ノ原一帯を調査するも、各１個体しか見られなかったことを考えると、引き続き、詳細な調査の必要性が高い種であると考える。

アカセセリ

ホシチャバネセセリ

○ゴマシジミの生息状況

本種は、２０１６年版の日本鱗翅学会による『日本産チョウ類の衰亡と保護(第７集)』によると、群馬県では、２０１０年のＥＮ(絶滅危惧Ⅰ類)からＥＸ(絶滅)へ判定が変わっている種である。榛名では、１９９１年８月８日に沼ノ原で生息が確認されているが、今回、この個体の確認は出来なかった。県立榛名公園沼ノ原の現状の環境としては、食草であるバラ科の寄主植物(ワレモコウ)があるとはいえ、寄主アリ(クシケアリ)の存在が確認されていないため、実態はよくわからない。県下全域を見ると、個体確認等の最終判定の必要性が高い種であると考える。

○沼ノ原エリアのチョウの生息確認

４８種(０５年)➡３１種（１６年）　　*(継続調査予定)*

※まだ、調査が不十分なため、減少・絶滅等の変化は確認できない。

○榛名の絶滅に瀕しているチョウ〈展示標本箱Ａ，Ｂ参照〉

【ＥＸ】ゴマシジミ　　【ＥＮ】ホシチャバネセセリ，アカセセリ，ヤマキチョウ

【ＶＵ】キバネセセリ，ギンイチモンジセセリ，ミヤマチャバネセセリ，スジグロチャバネセセリ，ヘリグロチャバネセセリ

【ＮＴ】アイノミドリシジミ，ウラジロミドリシジミ，ハヤシミドリシジミ，ヒメシジミ，ムモンアカシジミ，ヒョウモンチョウ，ギンボシヒョウモン，ウラギンスジヒョウモン，ウラジャノメ，ホシミスジ

３　まとめ

●一昨年度より、富岡市の里山で、三つの楽校“チョウの楽校”“田んぼの楽校”“天蚕の楽校”を開始しました。ここでは、地域の子ども達に、改めて里山の生き物に目を向ける場を提供し、今、自然界で起きている様々な出来事を、みんなで考えてみようというものです。まさに、地球環境を考える里山楽校です。本年度は、１０／１１以降、完成した藤袴園にアサギマダラ１７頭が初飛来。地域の親子連れが里山楽校を訪れる回数も増え、期待が高まっています。尚、里山の荒廃エリアは広く困難な課題が多いため、ボランティアによる維持管理のための作業が、三つの楽校を支える重要な活動となっています。